

## Y08b 4次元デジタル宇宙プロジェクトのコンテンツ公開と利用状況に関する評価

観山正見、牧野淳一郎、 縣秀彦、小久保英一郎、林満、加藤恒彦、武田隆顕、岩下由美、額谷宙彦（理研）、高幣俊之（理研）、奥野光（JSF）、三浦均（武蔵美大）、海部宣男ほか国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト

国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト(4D2U)は、この3年間、産学官共同研究として宇宙全体をシームレスに、時間と空間の旅が出来るような4次元デジタル宇宙コンテンツ群を開発してきた。また、家庭や学校、科学館・プラネタリウム館等に配布可能なよう、用途に合わせた3種類(Web、モバイル立体シアター、デジタルドームシアター)の映像公開用ハードウェア・ソフトウェアも開発してきた。(詳しくは<http://4d2u.nao.ac.jp/>または他の関連講演を参照)

現在の振興調整費による研究開発フェーズ(フェーズII)の終了にあたり、コンテンツ公開の状況をまとめるとともに、広く利用者からの意見も踏まえ4D2Uの教育・普及利用における評価を試みる。具体的には、国立天文台内3面シアターでの公開状況、モバイル立体シアターの公開状況、Webでの公開・配布状況、科学館・公開天文台等でのコンテンツ利用実態、マスコミからの反応等のデータとアンケート調査等の結果からプロジェクトの課題と今後のあり方を考察する。